街で“視覚に障がいをお持ちの方”を見かけたら・・・

街で視覚に障がいをお持ちの方を見かけたら、一声かけてください。
「何かお手伝いしましょうか？・・・」　と。

視覚に障がいがあると、誰かに何かを尋ねたくても、周りにどんな人がいるのか？周りに人がいるのかどうか？　さえ判らないので、周りに尋ねるのはとても苦手です。一声かけていただけるととても嬉しいのです。

その声で、人がいることがわかります。

本当に大まかな情報ではありますが、声から、その人が男性であるか女性であるか？ どれぐらいの年齢の人であるか？ どちらの方向に人がいるか？ などの情報がわかり、安心してお願いすることができます。

もし何かお手伝いが必要なら、必要なお手伝いをお願いします。

もしお手伝いの必要が無ければ、「だいじょうぶです」と答えるでしょう。

ただ、視覚に障がいのある方は、見ることを白杖一本に託して必死で歩いているので、もしかしたら声をかけてくださったことに気付かないこともあるかもしれません。そのときはごめんなさい。

何か危険が迫っているとき（例えば、目の前に車が止まっている、赤信号をわたりかけているなど）は、すぐに状況を言葉で伝えると共に、間に合わなければ軽く肩を叩くなどして止めてください。

これはとても嬉しいことで、そのようにして命を救っていただいた例がたくさんあります。

ただ、「危ないっ！」と言って行動を止め、状況を説明しないでそのまま行ってしまうのだけは止めてください。

視覚障がいのある方は、周りを見渡すことができないので、何が起こったのかわからないままその場から動けなくなってしまいます。

ところが意外と、階段の近くだったり、そのとき人が込み合っていたりするだけのことがよくあります。つまり、再三、歩みを止められることになります。

これでは、視覚障がいがある方は歩くことができません。「危ない！」の後に「階段です」などと状況説明を加えてください。

視覚に障がいのある方を誘導することを、「手引き」といいます。

手引きの方法には色々な方法があります。どんな方法がいいか、直接本人に尋ねてあげてください。

代表的な方法は次のとおりです。

視覚障がいのある方の杖を持っていない側（多くは左側）に立ち、肘を軽く持ってもらって、手引きをする方が半歩前を歩く。

＊視覚障がいのある方より手引きする人のほうが随分身長が低い場合は、肩を軽く持ってもらう。

必要に応じて目的地の場所の説明、状況説明、現在地や本人の向いている方向の説明、手引きをお願いします。

説明するときは、指示語（こっち、そっち、それなど）を使わず、本人の今向いている体の方向を基準に具体的に説明してあげてください。

手引きをするときは、「どこまでなら手引きをすることができる」を最初に伝えて、了解を得てから手引きをしてあげてください。途中で放されると、そこから動けなくなってしまう方がたくさんいらっしゃるからです。

＜手引きの注意点＞

★　これだけは絶対にしないでください！！

①視覚障がいのある方を後ろから押したり、抱きかかえたりする。

②視覚障がいのある方の歩くスピードを無視して、介助者のスピードに合わせて無理やり引っ張る。

③説明をするときなどに「ここ」と言って、介助者が白杖を持ってつかせるなどする。

これらは事故に直結しますので、絶対にしないでください！！

少し不安になられたらごめんなさい。一度目隠しして試していただけると、その意味を少しでもおわかりいただけるかと思います。

急いでいるときなどにはご無理をしていただく必要はありません。

もしお時間に余裕がございましたら、お手伝いくださいますようお願いいたします。

※「白杖を垂直に頭上に掲げて SOS のサイン（シグナル）を示している視覚に障がいのある方を見かけたら進んで声をかけてサポートお願いいたします。

文字が読めない読みにくい方のための
“よめるネット”
URL: http://yomerunet.com/
NPO 法人　うぃすたりあぶっく
(c) WISTARIABOOK. All rights reserved.